

## 博士學位論文要約

論文題目： 現代アメリカにおけるソーシャルメディアから広がる  
フェミニスト・ムーブメント

氏名： 井口 裕紀子

### 要約：

本論文は、ポスト・フェミニズム言説が台頭する 1980 年代以後のアメリカで、オンライン上に広がるフェミニスト・ムーブメントに注目し、現代のフェミニズムにおいて、ソーシャルメディアはどのような役割を持ち、フェミニズムはソーシャルメディアとの関わりの中でどのように変化しているのかを考察するものである。

現代のアメリカでは、女性の大学卒業率や就職率が向上し、政治や社会において重要なポストを得る機会も増えたことから、女性たちを取り巻く環境は以前に比べて変化している。しかしながら、今でも男女の間には、収入格差やセクシュアル・ハラスメントなど、多くの性差別が存在し、フェミニズムは過去のものとするポスト・フェミニズム言説と、自らの経験にずれを感じる女性は多い。そして、アンチ・フェミニズムの風潮が強いアメリカ社会において、あえてフェミニストを名乗り、今こそフェミニズムが必要だと主張する人々が、インターネットを使ったフェミニズム「オンライン・フェミニズム」を展開している。

初期のオンライン・フェミニズムでは、ホームページ、ブログ、掲示板といったものが活動の場の中心であった。2000 年代以降には、次々と誕生したフェイスブック (Facebook) やツイッター (Twitter)、インスタグラム (Instagram) といった SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) が使われるようになり、それらのソーシャルメディアを通じて展開するフェミニスト活動が多様化し、今までにも増して活発化している。この動きを受けて、ソーシャルメディアによって展開されるフェミニズムは、第三波フェミニズムに続く新しい波、「第四波フェミニズム」として位置付けられるようになっている。

第四波フェミニズムの論者たちは、ソーシャルメディアという新たなメディアが持つコミュニティ構築や情報共有、拡散といった機能がフェミニズムの発展に果たす役割を強調し、第四波フェミニズムの新しさを「ソーシャルメディアを使ったフェミニズム」と定義する。しかし、フェミニズムがどのように変化しているかという点について、総合的な立場から考察したものはこれまで出されていない。本研究では、より一步踏み込んで、ソーシャルメディアが運動のコミュニケーション形態を変化させていることが、今日のフェミニズムにとってどのような意味を持つのか、フェミニズムの内容はどのように変化したのかといった問題について考えたい。オンライン・テクノロジーは、日に日に進化を続け、流動的、横断的で、予測不可能だがオープンな空間を生み出している。この変化の激しい空間で展開されるフェミニズムを、オンラインで実際に活動を行っている具体的な運動を観察することによって、その始まりから発展の道なり、運動の特徴や活動のプロセスなどを総合的に理解することは、現在のアメリカのフェミニズムのあり方や方向性を理解するために重要である。

本稿では、ソーシャルメディアを使ったフェミニズムの活動、広がり、繋がり、行動を把握するために、オンラインで活動を行なう様々なフェミニスト・グループのうち約 300 グループをインターネット上で観察し、その目的、活動、主張や参加者の属性などを仔細に記録、リストや図の形に視覚化し、内容については言語化した。そのようなデータをもとに、現代のフェミニズムにおいてソーシャルメディアはどのような役割を持つのか、そしてフェミニズムのそのものはどのように変化しているのかを、「インターセクショナルリティ(intersectionality)」と「参加型政治(participatory politics)」の二つの視点から考察した。

「インターセクショナルリティ」とは、ジェンダー研究者であるキンバリー・クレンショー (Kimberly Crenshaw) によって提唱され、抑圧や差別、暴力といった問題は一つの要因によって形成されるものではなく、ジェンダー、人種、民族、階級といった多様な要因が複合的に交差する中で起きるとする概念である。インターセクショナルリティは、現代のフェミニズムにおける重要なキーワードとなっており、研究者だけではなく、運動に携わる人々にも行動目標として認識されている。特にソーシャルメディアの機能であるハッシュタグを使って展開される「ハッシュタグ・フェミニズム」は、多様な差異の交差点としての個人を重視し、それぞれ異なった個人が広く繋がることを可能にしている。

「参加型政治」は、政治学者でフェミニスト・アクティヴィストのキャシー・コーエン (Cathy J. Cohen) と教育政治研究者のジョセフ・カーネ (Joseph Kahne) が提唱した概念であり、個人とグループが相互に作用し合い、社会的関心となっている問題に発言し、社会に影響を及ぼすピア・ベースな政治的行為を意味する。この参加型政治は、参加者による五つの活動—調査、対話とフィードバック、循環、生産、動員—が働くことで成り立つ。これらの活動は、常に対等の力で動いているかどうかということは重要ではなく、なんらかの形でこの五つが相互に働き合うことが参加型政治を構成するためには重要である。参加型政治という運動形成を理解するための理論と、インターセクショナルリティという思想的コンセプトという二つの視点から考察を進めることは、現在のフェミニズムのあり方を総体的に理解するために必要である。

以上を踏まえ、本論文は第一章から第五章、そして終章によって構成している。まず第一章では、本研究の背景とアプローチ、方法論について述べている。

第二章では、オンライン・フェミニズムがどのようにして形成されたかを知るために、フェミニズムとテクノロジーの出会いから、第三波フェミニズムの中で誕生したインターネットを使ったフェミニスト運動、そしてソーシャルメディアの頻用によって、新しく出現したとされる第四波フェミニズムまでの発達の経緯をたどる。

第三章では、オンラインで活動を行う 300 のフェミニスト・グループへの観察を通して、これらのグループが実際に、どのようなソーシャルメディアを用いて、どのような活動を行っているのか、そしてオンラインに作られたフェミニストたちの世界は、どのようなものであるかを概観する。観察を行ったグループは、グループが創設された時期や規模、活動目的、ソーシャルメディアを使った運動戦略、使用するメディア、他のコミュニティとのつながり方といった点で、実に多様である。そのため、これらのグループを大まかに「情報提供型グループ」と「マイクロ・ポリティックス型グループ」の二つに分け、実際の運動の具体例を提示しながら考察を行った。

第四章は、第四波フェミニズムを特徴づける「ハッシュタグ・フェミニズム」に焦点を当て、運動の具体的な事例をインターセクショナルリティと参加型政治の観点から考察した。そして、

個人が日常を生きる中で経験する性差別やミソジニーを、ソーシャルメディア特有の機能であるハッシュタグを使って発言し、多様な属性を持った個人が特定の問題意識のもとに集まることで、アイデンティティや国境といった従来の枠組みを超えた人々との連携を生み出していることを明らかにしている。

第五章は、21世紀における最大規模のフェミニスト運動となった「ウィメンズマーチ」を取り上げる。特に、このマーチがどのようにして、多様で異なる関心を持つ参加者たちを結びつけ、大きな運動へと発展していったのかを考察した。そして、ソーシャルメディアというオンラインの世界での交流と、運動のシンボルとなった「プシーハット・プロジェクト (The Pussyhat Project)」のような「クラフティヴィズム」が結びつくことによって、異なるバックグラウンドや感情、モチベーションを持つ人々のつながりを生み出し、さらには大規模で持続的な社会運動を作り出したことを明らかにした。

最終章では、現代のフェミニズムがソーシャルメディアとインターセクショナリティとの関わりの中で、どのような新しい文化を作り出しているのか、そしてどのような課題を抱え、どのような方向に向かっているのかといった点について考察し、これまでの議論を総括している。

そして、本研究によって得られた主要な結果は、次の通りである。現代のフェミニズムはまさに、ソーシャルメディアとインターセクショナリティの結びつきの中で、①職場進出や政治進出のような数字で表されるような不平等だけではなく、セクシャル・ハラスメントやストリート・ハラスメント、ミソジニーな発言や暴力、ドメスティック・バイオレンス、女性表象といった日常で起こる問題に取り組み、個人の独自性をたもったままに発信できるようになり、②「私たちは皆が一つではない」という前提のもとに従来のカテゴリーやアイデンティティの枠組みを超えて、多様で広範囲の人々との協働が行われ、③ソーシャルメディア特有の機能であるハッシュタグを用いた活動により、特定のグループには所属しない個人たちによる運動参加や文化創造が可能となった。

ソーシャルメディアを使って生み出されたフェミニストの空間は、コクーン化や分断、インターネット環境が生み出す格差、運動内での力関係といった課題を抱えながらも、日に日に広がりを見せている。オンラインの世界は流動的で、つねに変化する性格を持っており、現代のフェミニズムを支えるソーシャルメディアは今後変化し、新たなコミュニケーション形態や自己表現の方法を生み出す可能性も大いにある。このようなインターネットが持つ流動性を踏まえた上で、今後も慎重にアメリカのフェミニズムの動きを追って行きたいと考える。